

# 2020 年度磐梯町地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、会津地方の北東部に位置し、59.79キロ平方メートルと東西に広がっている。耕地の大部分が中山間地域であり、標高差により東部・中部・西部の3地区に分かれる。

町全域の基幹作物は水稲であるが、水稲を中心とした複合経営により畑作振興に取り組んでおり、東部地区においては、花卉（ハイブリットカラー）・葉茎野菜（法連草）・施設野菜（生食トマト）・菌茸類（乾燥）、西部地区においては、果樹（りんご）などを生産している。

しかしながら、農家の高齢化や後継者の不足により農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中で、地域の安定的な農業生産活動維持のため、新規就農者の確保、一定以上の経営規模を備えた農業者、集落営農、法人を担い手として認定し生産への支援や育成を行っていくことが必要である。

## 2 作物ごとの取組方針等

### （1）主食用米

消費者（実需者）のニーズに対応した中で、適地適作を誘導し、安定的供給により消費者重視の「売れる米づくり」を進めるとともに、ライスセンター利用による品質の安定化、トレーサビリティ（生産履歴）の導入、減農薬・減化学肥料栽培など特別栽培米に取り組み、安全・安心な米の産地として販路の拡大と磐梯町産米のブランド化を図る。

### （2）非主食用米

#### ア 飼料用米

産地交付金を活用し、直播栽培等の導入による低コスト生産の取組を支援し、主食用米から飼料用米への転換を図る。また、作付品種においては一般品種から多収品種への転換を図り、2020年度には多収品種による作付を3.0haまで拡大を目指す。

#### イ 米粉用米

該当なし

#### ウ 新市場開拓用米

該当なし

#### エ WCS用稲

該当なし

#### オ 加工用米

該当なし

#### カ 備蓄米

備蓄米は、水田として活用できるため、国の根幹施策の重要な作物として振興を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、国産大豆需要の高まりのなかで、良品質の生産に努めるため、生産組織体制により団地化、乾燥調製施設利用による品質の向上を図り消費者・地元実需者との連携による需要拡大に取り組む。

麦については、播種時期が秋の長雨や、収穫期が梅雨に遭遇し登熟期間が満たなくなることから、担い手への作業集積、団地化、優良品種の確保・適正栽培管理の実施・高性能機械等の導入による生産性の高い産地の育成に努める。

飼料作物については、該当なし。

### (4) そば、なたね

そばについては、担い手への作業集積を図り、産地交付金を活用した団地化、優良品種の確保・排水対策等適正栽培管理の実施・高性能機械等の導入により生産性の高い産地の育成に努め、現行の栽培面積を確保する。

なたねについては、該当なし。

### (5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜においては、地産地消に取り組み、食料自給率向上のため、地域密着型販路（道の駅・JA）を拡大していく。また、主食用米に代わる作物支援として、産地交付金を活用し「トマト（ミニトマト含む）」、「アスパラガス」、「サヤインゲン」、「ピーマン」、「ナガネギ」、「カボチャ」、「ナス」を振興品目として推進を図る。

花卉においては地域密着型販路（道の駅・JA）を拡大し、主食用米に代わる園芸支援として、産地交付金を活用し「リンドウ」、「ハイブリットカラー」、「グラジオラス」を振興品目として推進を図る。

また、エコファーマー等による低コスト化の取組を推進する。

### (6) 畑地化の推進

該当なし

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	362.0	358.6	358.0
飼料用米	6.6	6.8	9.8
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0
WCS用稲	0	0	0
加工用米	0	0	0
備蓄米	29.5	32.6	35.0
麦	0	0	0
大豆	0	0	0
飼料作物	0	0	0
そば	57.4	60.0	63.0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	8.2	9.4	9.6
野菜	7.1	8.2	8.4
・トマト(ミニトマト含む)	3.1	3.5	3.5
・アスパラガス	1.9	2.3	2.4
・サインゲン	0.1	0.1	0.1
・ピーマン	0.7	0.7	0.7
・カギネギ	0.7	1.0	1.1
・カボチャ	0.3	0.3	0.3
・ナス	0.3	0.3	0.3
花卉	1.1	1.2	1.2
・リンドウ	0.7	0.8	0.8
・ハイブリットカラー	0.1	0.1	0.1
・グラスオラス	0.3	0.3	0.3

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜 トマト（ミニトマト含む）、 アスパラガス、サインゲン、 ピーマン、カブ、 かぼちゃ、ナス	振興作物推進助成	振興作物の作付面積	(2019年度) 7.1ha	(2020年度) 8.24ha
	花卉 リンドウ、ハイブリッドカー、 ゲラジオラス	振興作物推進助成	振興作物の作付面積	(2019年度) 1.1ha	(2020年度) 1.2ha
2	野菜 トマト（ミニトマト含む）、 アスパラガス、サインゲン、 ピーマン、カブ、 かぼちゃ、ナス	エコファーマー又は持続性の 高い農業生産方式によ る栽培助成	地域振興作物のエコファーマ ー又は持続性の高い農 業生産方式による栽培 面積	(2019年度) 2.9ha	(2020年度) 3.25ha
	花卉 リンドウ、ハイブリッドカー	エコファーマー又は持続性の 高い農業生産方式によ る栽培助成	地域振興作物のエコファーマ ー又は持続性の高い農 業生産方式による栽培 面積	(2019年度) 0ha	(2020年度) 0.25ha
3	そば	戦略作物団地化・高品 質化助成	戦略作物団地化面積 (そば) 単収 40.0 kg/10a	(2019年度) 29.9ha 52.0 kg/10a	(2020年度) 37.0ha 52.0 kg/10a
4	飼料用米（多収品種）	飼料用米多収栽培 技術導入支援	飼料用米（多収品種） 多収栽培技術導入によ る取組面積 10a当たりの収量（多収 品種圃場の平均単収） 60kg当たりの生産費	(2019年度) 1.8ha 740 kg/10a 12,667 円/60 kg	(2020年度) 3.0ha 750 kg/10a 11,400 円/60 kg
5	飼料用米（一般品種）	飼料用米推進助成 （一般品種）	飼料用米（一般品種） の取組面積 作業効率化（低コスト 栽培技術の導入）によ る労働時間	(2019年度) 4.8ha 20.5 時間	(2020年度) 6.8ha 17.37 時間

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。